

令和7年度 第1回 自動車運送事業安全対策検討会 議事概要

日 時：令和7年6月25日（金） 10:00～12:00

場 所：中央合同庁舎2号館共用会議室1 （対面・WEB 併用）

出席者：酒井座長、秋山委員、池田委員、大越委員、岡部委員、小川委員、
加藤委員、田久保委員、林委員（欠席・寺田委員）

議事次第に沿って、事務局から資料の説明後、質疑応答が行われた。主な内容は以下の通り。

【事故分析】

- バス運転者が少ないなか、入社後に大型二種免許を取得し、いきなり大型バスに乗車して運転するという状況があり、人身事故だけではなく物損事故も増えている。
- 車内事故発生の原因について分析が十分ではないため、引き続き進めていく必要がある。例えば、急ブレーキによる車内事故が発生した場合、なぜ急ブレーキを踏むに至ったか分析ができていないため、それに対する対策もできていない。
- 軽自動車は出会い頭の事故が多いという印象だったが、最近では追突が増えている。軽自動車が幹線道路等を走行するような普通トラックと同様に使われるような状況あるのではないか。
- コロナがどう影響を与えたかについてほとんど検討されていない。コロナ禍で旅客の需要は減ったが、貨物の需要は増えた。運転者の確保や退職して戻らないといった、仕事が少なく技術を保てないといったことがあった。コロナの影響をきちんと評価に反映した方が良いのではないか。
- 客観的なデータから事故発生の因果関係を明らかにしてほしい。例えば、追突事故防止であれば衝突被害軽減ブレーキ導入が重要であると考えるが、それらの因果関係が分析されていない。特に、高頻度のもの、低頻度だがリスクが高いものについては事故のメカニズムを詳細に記述し、どういった施策が必要なのかきちんと整理する必要がある。

→ いただいたご意見を踏まえながら、事故分析を行ってまいりたい。

【乗合バスの車内事故防止】

- 一般車の無理な割り込みに対してブレーキを踏むことで車内事故が発生する事例がある。運転者、利用者への啓蒙を続けていく必要はあるが、一般の方にも交通ルールを守っていただくよう周知できれば良い。
 - 啓発動画を作成し、車内事故防止の取り組みを行ってきたが、まだ徹底されていない。今年になって仙台市ではステッカーを座席の後ろに貼っていただき、ようやく取り組みが反映された。引き続き取り組みを続けてはどうか。
- 乗客向けの車内事故防止対策として、バスを利用する際の乗客に適切な乗車方法について、引き続き啓発を行ってまいりたい。

【タクシーの事故対策】

- 若者と高齢者の事故が多く、重点的な対策を講じる必要がある。タクシーは、特にこれまでは高齢者に偏った対策だったため、新人への対策が少なかった。
 - タクシーの需要は、夜間や雨など条件が悪い時が多く、高齢ドライバーにとって厳しい状況である点が大きな課題である。
- 初任運転者及び高齢運転者における事故防止対策について検討してまいりたい。

【貨物軽自動車の安全対策】

- E コマースの増加により軽貨物の台数が増えていくなかで、軽貨物の安全対策が必要である。軽貨物の協会等の検討会への参加を検討いただきたい。
- 軽貨物の関係団体にも委員として参加してもらうよう調整してまいりたい。

【車両の安全対策】

- 運転者の体系的な育成システムが必要であると同時に、衝突被害軽減ブレーキ等の安全装備を普及させ運転者をサポートさせることも重要である。
- トラックの追突に対しては衝突被害軽減ブレーキが対策になるが、事業用自動車の場合は代替えが進んでいない。旧式の車両で衝突被害軽減ブレーキが付いてい

ない車両が高速道路で追突事故を起こしている事例もあり、代替えを含めた施策を視野に入れても良いのではないかな。

- 衝突被害軽減ブレーキをはじめとした先進安全技術は交通事故防止に貢献しているところ、先進安全技術の更なる性能向上及び普及を促進する方策を検討してまいりたい。

【ICTの活用による運行管理の高度化】

- IT や AI といった技術を活用し、運行管理の確度を高めながら集約化を進めていく必要がある。
 - デジタコの普及率を上げることで、記録管理の効率化だけではなく、運転者に対し運転操作や危険箇所等の注意喚起を行う機能を有するものもあるので、AI 化、デジタル化によって事故も減らせるという施策に繋がるのではないかな。
- 引き続き、安全な運行に資する ICT の活用による運行管理の高度化の検討をしてまいりたい。

【次期プランの目標値】

- 目標についてはある程度現実的な、達成可能な目標値を設定すべきである。
 - 目標値について件数ではなく、走行キロあたりや、保有台数あたりなど単位あたりの設定をすべきである。
 - 目標値については、前回と同じ形で立てづらいのではないかな。H27 年から R1 年について線形回帰で求めていると思うが、コロナがあるので、同じ手法を使えないのではないかな。
- いただいたご意見を踏まえながら、次期プランの目標について検討を行ってまいりたい。

【自動車運送事業を取り巻く現状と対策】

- 今後外国人労働者が増えていくなかで、運転適性検査は英語やポルトガル語に対応している一方で、運行管理者や安全管理者に関しては日本語のみである。こういった状況も盛り込みながら進めていく必要がある。

- 賃上げと乗務効率化は今後ドライバーを確保していく上で絶対に必要である。
- いただいたご意見を踏まえながら、次期プランの施策について検討を行ってまいりたい。

【各種マニュアルの活用】

- マニュアルの作成とあるが、マニュアルは作って終わりではなく、どう活用するかが重要である。マニュアルを徹底することは大事だが、人手不足のなかで具体的な対処をどうするか、現場ではジレンマがある。
- マニュアルを見て終わりではなく、それらを実行してもらうため、関係者の行動変容を推進する施策を検討してまいりたい。

以上